

平成 19 年 10 月 10 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ジ ー ダ ッ ト  
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 石 橋 眞 一  
 (コード番号：3841)  
 問 い 合 せ 先 取 締 役 経 営 企 画 部 長 増 山 雅 美  
 電 話 番 号 03-5847-0312 (代表)

**平成 20 年 3 月 期 中 間 (連 結 ・ 個 別) 業 績 予 想  
 及 び 通 期 (連 結 ・ 個 別) 業 績 予 想 の 修 正 に 関 す る お 知 ら せ**

平成 19 年 5 月 15 日の決算発表時に公表した平成 20 年 3 月 期 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日) の業績予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

**1. 連結業績予想の修正**

(1) 中間期 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	1,100	115	167	100
今 回 修 正 予 想 (B)	914	24	70	45
増 減 額 (B - A)	△185	△90	△97	△54
増 減 率 (%)	△16.9%	△78.4%	△57.9%	△54.5%
(ご参考) 前中間期(平成 18 年 9 月 中 間 期)実 績	1,035	171	220	144

(2) 通期 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	2,240	256	310	200
今 回 修 正 予 想 (B)	2,000	89	150	90
増 減 額 (B - A)	△240	△166	△160	△109
増 減 率 (%)	△10.7%	△65.1%	△51.6%	△54.8%
(ご参考) 前期(平成 19 年 3 月 期)実 績	2,095	207	290	189

## 2. 個別業績予想の修正

(1) 中間期 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	1,100	116	147	96
今回修正予想 (B)	911	20	47	30
増減額 (B - A)	△188	△96	△100	△65
増減率 (%)	△17.1%	△82.8%	△70.0%	△68.6%
(ご参考) 前中間期(平成 18 年 9 月中間期)実績	1,035	178	180	117

(2) 通期 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	2,240	259	293	190
今回修正予想 (B)	1,980	87	133	81
増減額 (B - A)	△259	△171	△160	△108
増減率 (%)	△11.6%	△66.2%	△54.6%	△57.3%
(ご参考) 前期(平成 19 年 3 月期)実績	2,095	233	238	154

## 3. 修正の理由

当社企業グループの主要な顧客の一つである液晶関連の製造業は、液晶パネルの価格下落、在庫調整等の影響で依然として厳しい事業環境下にあり、投資抑制の傾向が続いております。当社企業グループといたしましては、主力製品α-SXを中心に各顧客の設計現場に密着して顧客が抱える問題解決の提案を重ねてまいりましたが、当社製品の増設等の動きを加速するまでには至っておりません。また、海外市場につきましても、ターゲット顧客を絞り込んだ上で、代理店の整備育成も含めて積極的に進めておりますが、商談の成約までにかかなりの時間を要するという当社事業の性格により、短期的な成果につながっておりません。また、もう一つの主力市場である半導体市場につきましても、堅調に推移はしておりますが、液晶市場の落ち込みをリカバリーするまでには至っておりません。

一方で、今後の事業の成長を目指して、研究開発要員の増強、営業体制の強化、当社 100%出資の子会社「株式会社A-ソリューション」設立による IP (Intellectual Property : LSI を構成するために必要な機能ブロック等の設計資産) 事業への進出、米国 TAKUMI 社への出資を含めた DFM (Design For Manufacturability : 製造容易化設計) 分野への本格的な進出等の積極的な投資を進めております。今後当社が事業の拡大をはかっていく上で、必要不可欠な投資であると判断いたしております。

以上の結果、今中間期の業績は当社想定を下回る見通しとなりました。

連結売上高は前回発表予想に比べて16.9%減の9億14百万円、連結営業利益は78.4%減の24百万円、連結経常利益は57.9%減の70百万円、連結当期純利益は54.5%減の45百万円となる見込みであります。

下期に関しましても、液晶業界の回復が当初予想した以上に遅れており、投資抑制の傾向が引き続き継続するものと思われまます。海外商談の加速等で、全力をあげて売上向上に努めてまいりますが、当初見通しの水準を維持することは難しいと判断され、通期見通しにつきましても合わせて修正を行わせていただきます。

なお、期末配当につきましては、前回発表通りの2,000円を予定いたしております。

※ 将来の事象に関わる記述に関する注意

業績予想につきましては、発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後起こりうる様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上